

# 令和7年度指定管理運営業務評価票

指定管理者：少年自然の家共同事業体		指定期間：平成28年4月1日～令和8年3月31日			所管課：市町村教育室地域教育振興課	
評価項目	評価基準（内容）	指定管理者自己評価		施設所管課の評価		評価委員の指摘・提言
		評価内容	評価	評価内容	評価基準 ごとの評価	
			S～C		S～C	S～C
I 提案の履行状況に関する項目						
(1)施設の設置目的及び管理運営方針	①社会教育施設としての設置目的及び管理運営方針に則り運営がなされているか	施設の設置目的である、心身ともに健全な青少年の育成を実現するため、利用団体とは事前に丁寧なプログラム内容の相談と打合せを行っています。これにより、教育的な目的や効果を十分に考慮し、青少年にとって意義のある体験活動を提供できるよう全力で取り組んでおります。さらに、この目的を達成するために、既存プログラムの質を常に見直し、充実させる努力を続けております。	A	指定期間を通して、利用目的や活動内容に応じたプログラムを提供するとともに、適切な指導を行うことで、子どもの多様な体験活動の機会を充実し、心身ともに健全な青少年の育成を図っている。	A(3)	A
	②法令遵守の取組み状況は適切か	法令遵守については、施設整備に関する各種法定点検を適切に実施し、安全性と法令遵守の徹底に努めています。また、労働基準法を遵守し、職員がオーバーワークとならないよう、適切な労務管理を行っています。昨年度よりICTを活用した社内勤怠管理システムを導入し、働きやすい環境の整備と労働時間の適正管理を推進しています。	A	消防法、浄化槽法など施設関係法令を遵守するとともに、保守点検を計画どおり実施し、適切な施設管理・運営を行っている。また、ICTによる勤怠管理システムも導入し、適切な労務管理を行っている。	A(3)	A
(2)平等な利用を図るための具体的手法・効果	①利用承認、事業の実施等において平等利用が確保できているか	常に公平性を重視し、利用案内、利用承認、事業の実施を行っています。  利用案内 府民に広く平等に情報を提供するため、インターネット配信や地域コミュニティ広報への掲載を依頼しています。また、事業に関しては、チラシを府内図書館や区民センターなどに配布するとともに、広く府民に周知するために、ホームページ、YouTube、Facebook、Instagram、LINE、貝塚市広報、新聞社への情報提供など積極的に活用しています。特にLINEやInstagramについては、有料プランの導入や有料広告の利用を行い、さらなる周知拡大に努めています。  利用承認・事業の実施 学校団体に対しては、一定の申込期間を設けた上で、利用希望日程が重複した場合には抽選を実施しています。事業受付については、Googleフォームを活用し、電話申し込みや郵送手続きといった利用者の煩わしさを解消しました。これにより、申込手続きがスムーズになるだけでなく、利用者にとって利便性の高い申込方法を実現しています。また、申込開始日を設定し、申込多数が予想される場合は抽選制を採用しています。施設の利用場所や時間についても、各団体の希望を丁寧に聞き取り、公平性を欠くことのないよう配慮しています。	A	申込及び日程調整の方法を定め、ホームページに掲載したりSNSで周知したりと、幅広く情報提供している。日程の希望が重複した際は、抽選を行うとともに、体育館等の施設利用の事前打合せを実施することで、平等利用を確保している。	A(3)	A
	②障がい者、高齢者、外国人等に対する案内等の配慮は適切か	障がい者、高齢者、外国人に対する案内等 障がい者や高齢者に対しては、事前の打合せを十分に行い、個々のニーズに応じた支援体制を整えています。例えば、階段を使用せずに入室可能なフロアの割当や、車いす使用者の所内移動支援を実施しています。また、貸出用車いすや介護用風呂椅子を常備し、障がい者向けの専用浴室も整備することで、利用者のニーズに柔軟に対応しています。さらに、国際的な利用者に対応するため、施設内表示の多言語化を進め、より多様なニーズに応える環境を整備しています。  食事の提供 利用者一人ひとりに対応するため、食物アレルギー調査を徹底し、アレルギーの除去食や代替食を提供しています。また、糖質や脂質制限が必要な方への情報提供や、嚥下障がいをお持ちの方に配慮した食事も提供しています。加えて、宗教や信仰に基づくハラール食、ベジタリアン、ヴィーガンといった多様な食文化にも対応しており、利用者が安心して食事を楽しめる環境を提供しています。	A	車いすを利用する方の施設内移動に、専用車を使用している。食事の取扱いについて、アレルギー調査票に基づき、除去食や代替食を提供している他、嚥下機能に障がいのある場合は、食形態を調整した食事を提供している。また、様々な理由により対応食が必要な場合は、代替食を提供できるよう努めている。様々な掲示物を多言語化したり、大きな文字やイラスト表記のあるものを用いたりしている。障がい者用の浴室が積極的に活用されるよう対応している。	A(3)	A
①日帰り・宿泊合計の年間利用者数	令和7年度目標 合計 110,500人 宿泊数 59,980人 日帰り数 50,520人	・利用者実績（11月末時点）：69,569人（12～3月の予約人数は10,435人） ・年間利用者見込み（11月末時点）：合計79,914人 内訳 宿泊 47,391人／日帰り 32,523人  ・第一四半期においては、万博開催に伴う大型バス需要の高まりおよびバス料金の高騰により、交通手段の確保が困難となった結果、学校団体を中心にキャンセルが相次ぎ、宿泊利用者数は前年同期比78%と大きく落ち込んだ。一方、第二四半期以降は、夏休み期間の利用拡大、中国からのインバウンド利用、スポーツ団体や企業団体の連泊利用の獲得により、第二四半期は前年同期比114%、第三四半期は117%と回復傾向が見られた。現時点では年間利用者数の目標達成は難しい見込みであるものの、日程変更を行った学校団体の受入れや新規団体の獲得など、営業努力を継続しており、利用促進に向けた取組を引き続き進めていく。		実績（11月末時点）：69,569人（目標値の62.9%） 内訳 宿泊 38,997人／日帰り 30,572人	C(1)	
	②施設・設備への投資が適切になされているか	（施設・設備への投資） これまで利用受け入れが難しかったファミリー層、小グループなどの一般利用を増やすことを目的に「バーベキューガーデン奥貝塚」を平成30年3月16日に設置。建築費用は9,760,000円（72回リース・平成30年3月より開始）。 （利用状況及び利用促進） 「バーベキューガーデン奥貝塚」については、11月末時点で155件・1,729人の利用があり、前年同時期の2,492人と比較すると763人の減少となった。 利用内訳としては、一般利用が140件・1,383人であり、利用促進を目的とした事業活用として「ホテルの夕べ」「流しそめん」「えほんでいただきます」等による利用が15件・409人であった。 また、昨年度周辺に増設した家族・小グループ向けテントサイトの炊事場としても活用されており、バーベキュー利用にとどまらない施設機能の一部として定着しつつある。 現時点では年間利用目標である5,800人の達成は難しい見込みであるが、イベント等との運動による活用や多目的利用を進めることで、引き続き利用促進に努めていく。		バーベキューガーデンを活用した事業を積極的に行っているが、昨年度よりバーベキューガーデンの利用者数が減少している。また指定管理者応募時の提案書数値と比較すると3割程しか達しておらず、利用促進については課題が多い。	C(1)	
	③主催事業が適切に実施できているか	・事業数 令和7年度目標 5事業 ・参加者人数 令和7年度目標 737人	令和7年度実績（11月末時点）：5事業 5回 令和7年度予定：5事業 6回 令和7年度実績（11月末時点）：96人 令和7年度見込：546人		実績（予定含む）：5事業6回 【達成率】100% 実績（見込含む）：546人 【達成率】74.1%	A(3) B(2)

(3)利用者の増加・サービスの向上を図るための具体的手法・効果	・内容（教育効果・参加者満足度・広報等）	<p>例年好評を得ている読書推進事業「えほんでいただきます」については、これまで題材としてきた「ぐりとぐら」が作者の逝去および著作権上の理由により使用できなかったため、今年度は別の題材を用いて実施した。その影響もあり、集客面では例年ほどの成果には至らなかったものの、絵本と自然体験を組み合わせた本事業の趣旨自体は評価に値する取組であり、内容面での意義は維持されていると考える。</p> <p>また、「絵本のひろば」については、2月に「その他自主事業」であるオープンデーと併催する形で実施を予定している。ホールで寝ころびながら自由に読書ができるなど、施設の特徴を活かした読書体験を提供する計画としており、新たな利用促進につながることを期待している。</p> <p>なお、これらの読書推進事業はいずれも貝塚市立図書館の協力を得て実施している。</p> <p>「中高生チャレンジキャンプ」および「子どもワイルドキャンプ」については、それぞれ3泊・4泊の日程で実施し、グループワークや共同生活体験に魅力を感じる参加者が多く見られた。川遊びや秘密基地づくり、流しそうめん等の活動を通じて、仲間と相談・協力する力や想像力・創造力を育む効果が確認できており、継続的に参加する児童がいることから、本事業の魅力の高さがうかがえる。</p> <p>さらに、9月には防災関連事業「サバイバルマスター」を実施し、「水」をテーマとした体験型プログラムにより、防災意識の向上を図った。</p>	B	参加者のニーズを分析し、実施内容の見直しを行うとともに、開催方法も工夫して実施するなど、1つ1つの事業について、向上心を持って取り組んでいる。さらに時代のニーズに合わせた事業や内容を検討し、教育効果をより高めるための工夫を行っている。	A (3)	B																				
	④広報・情報発信の取組みが適切になされているか	<p>大阪府と連携して各種広報活動を展開している。</p> <p>（広報物の工夫）事業チラシは年間行事の案内をはじめ、各事業ごとにラクスルを採用し、しっかりした印刷物として配布している。またオンラインデザインツールCANVAの有料プランに加入し、効率的に興味を引くようなデザインを心がけている。</p> <p>SDGsマッピングを行い、対象の事業にはアイコンを入れることで、持続可能な環境への取り組みをアピールしている。</p> <p>図書館、公民館、コミュニティセンターへの送付便を利用して主催、自主事業などのチラシを配架している。</p> <p>過去の事業参加者にはダイレクトメールを送付している。（12月末までに6回、2カ月に1度のペース。登録数700件）</p> <p>貝塚市の広報誌へ毎月、事業案内の掲載を依頼している。</p> <p>情報は随時ホームページやSNSに掲載し、情報を提供している。</p> <p>（その他取材記事の例）読売新聞（SNSフォロワー数）</p> <p>受付窓口にて、フォロワーへの特典サービスを用意し、フォロワーの増を図っている。</p> <p>Instagramフォロワー 1775人→2553人、Facebookフォロワー 861人→902人、LINE 1214人→1293人（有料WEB広告の活用）</p> <p>LINEアカウントは引き続き有料プランを使用し、定期的な情報発信ツールとして利用している。</p> <p>instagramの有料広告を活用し、職員が出演したリール動画を作成。焚火やオープンデーの広報手段の一つとして利用している。</p>	<p>地元の広報誌や新聞、インターネット等の様々な媒体を利用し、幅広く広報を行っている。</p> <p>SDGsマッピングを行い、対象の事業にはアイコンを入れ、持続可能な環境への取り組みをアピールを行うことで、自然の家のイメージの向上や信頼性が高まっている。</p> <p>また過去の事業参加者に事業参加を呼びかけるダイレクトメールを送るなど、幅広く利用者を獲得しようとしている。さらに、Instagram、facebook、LINEのフォロワーも増加しており、SNSを有効に活用している点が評価できる。</p>	S (4)																						
	⑤利用者サービス向上の取組みが適切になされており、効果をあげているか	<p>過去5年間に利用のあったの団体代表者に対して、一年前の予約開始時期を知らせるFAXやハガキを毎月発送しており、予約忘れの防止に役立つと好評である。</p> <p>団体の打合せの利便性を向上させるため、直接来所その他、電話やメール、Zoomなど多様なコミュニケーション手段を用意している。</p> <p>施設の様子が映像で確認できるように、YouTubeチャンネルに施設紹介動画をアップロードし、利用団体に案内している。現在までに47,000回以上閲覧されている。</p> <p>ICT導入を進め、事業受付の簡略化を図るため、各事業ごとにQRコードを用いてGoogleフォームから申し込みができるようにし、チラシなどで利用者に周知している。</p> <p>申込プラットフォームをGoogleフォームに統一し、24時間いつでも利用者が申し込み可能な体制を整えた。</p> <p>「たき火を楽しもう」などの事業受付時の案内を、Instagramを活用した動画説明に変更したところ、利用者から「わかりやすく良かった」と好評を得ている。</p>	<p>団体の打合せや下見について、さまざまな方法を選択できるようにすることで、来所しなくても実施できるよう工夫しており、施設案内用のyoutube動画も数万回の閲覧があり、利用者のニーズに対応することができている。</p> <p>予約を24時間申し込み可能なGoogleフォームを活用する等、利用者サービス向上のみならず、職員の負担軽減につながる取組も実施している。</p>	A (3)																						
(4)施設の維持管理の内容、的確性及び実現の程度	①維持管理の内容は効果的で適切か	<p>大阪府との年間業務委託・保守点検計画に基づき日常点検とメンテナンスを実施。適用する関係法令を遵守するとともに、専門的な知識、技能を有する業務は専門業者により実施している。</p> <p>（点検及びメンテナンス業務）</p> <table border="1"> <tr> <td>消防用設備点検</td> <td>LPガス強制気化装置（ペーパライザー）保守点検</td> <td>ガス温水器排ガス測定</td> </tr> <tr> <td>電気工作物保安管理</td> <td>警備保安管理</td> <td>ボイラーの運転</td> </tr> <tr> <td>温水ヒーター（ボイラー）点検</td> <td>浄化槽検査</td> <td>水道施設維持管理及び水質調査</td> </tr> <tr> <td>受水槽・高架水槽清掃及び汚泥搬出</td> <td>灯油地下タンク点検</td> <td>汚水処理施設維持管理及び</td> </tr> <tr> <td>建築基準法に基づく定期点検</td> <td>敷地内除草</td> <td>防火対象物点検</td> </tr> <tr> <td>特別清掃</td> <td>空気環境測定</td> <td>害虫防除</td> </tr> <tr> <td>公用車点検整備</td> <td>ごみ回収</td> <td></td> </tr> </table> <p>各種点検等で指摘事項があれば、修繕等、迅速に対応している。また、点検結果については、所轄官庁へ提出するとともに、大阪府と連携し、日常の安全管理に努めている。</p> <p>設備の老朽化対応などについては、大阪府と調整し、修繕計画を進めている。</p> <p>森林管理については、定期的な登山道の巡回および危険木の点検・伐木等を実施し、安全確保に努めている。また、倒木や落石の恐れがある箇所については随時確認・対応を行い、利用者が安心して活動できる環境の維持に取り組んでいる。</p>	消防用設備点検	LPガス強制気化装置（ペーパライザー）保守点検	ガス温水器排ガス測定	電気工作物保安管理	警備保安管理	ボイラーの運転	温水ヒーター（ボイラー）点検	浄化槽検査	水道施設維持管理及び水質調査	受水槽・高架水槽清掃及び汚泥搬出	灯油地下タンク点検	汚水処理施設維持管理及び	建築基準法に基づく定期点検	敷地内除草	防火対象物点検	特別清掃	空気環境測定	害虫防除	公用車点検整備	ごみ回収		<p>法令を遵守した法定点検等を実施し、利用者が安全・快適に使用できるよう適切に維持管理を実施している。</p> <p>消防署の立ち入り検査で指摘を受けた部分も、大阪府に相談してともに解決できるよう調整を行っている。また利用者が安全にハイキング、登山できるように森林管理も適切に行っている。</p>	A (3)	A
	消防用設備点検	LPガス強制気化装置（ペーパライザー）保守点検	ガス温水器排ガス測定																							
電気工作物保安管理	警備保安管理	ボイラーの運転																								
温水ヒーター（ボイラー）点検	浄化槽検査	水道施設維持管理及び水質調査																								
受水槽・高架水槽清掃及び汚泥搬出	灯油地下タンク点検	汚水処理施設維持管理及び																								
建築基準法に基づく定期点検	敷地内除草	防火対象物点検																								
特別清掃	空気環境測定	害虫防除																								
公用車点検整備	ごみ回収																									
②施設管理に関する経費の執行状況は適切か （正当な理由なく、修繕費の実績（具体的な予定額を含む）が計画の90%を下回る場合は、「C」評価とする。）	<p>緊急性が高いものは即時対応し、通常の修繕は優先順位をつけて実施した。昨年12月から続いている漏水の調査及び修繕を行った。11月末までの修繕費の予算3,300,000円に対して4,340,801円と予定を超過し（132%）執行をしている。</p> <p>【主な修繕】</p> <p>本館LED化推進、冷却塔ストレーナー交換、クラフト室エアコン新設、二号道路水道管漏水調査、パーベキューガーデン雨除けテント新設、玄関天井ポット張替え、厨房食洗器、フレハブ冷蔵庫水漏れ修繕、野外トイレ前漏水箇所修繕工事、オリエンテーションホール空調機ドレンパン修理、オリエンテーションホールスクリーン更新、厨房スポットクーラー更新、登山道整備など</p>	<p>施設内において利用者が安全で快適に過ごせるように、リスク分担表にもとづいて速やかに対応している。11月末現在で修繕費の実績が計画数値を大幅に達成しており、経費の執行状況は適切である。</p>	S (4)																							

	③施設の規模・機能にみあった管理体制・危機管理体制が確保されているか	<p>(管理体制・危機管理体制の確保) 技師の増員による管理体制の強化 (その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食堂の食物アレルギー対応強化 (アレルギーマニュアルの遵守)</li> <li>・火災避難訓練の実施 (年2回)</li> <li>・緊急時の備蓄品確保</li> <li>・危機管理マニュアルの更新</li> </ul>	今年度、停電が数回あったが、台風や地震による被害は発生していない。すべての職員が定期的に「危機管理マニュアル」を確認し、危機事象発生時には、迅速適切に対応ができるよう努めている。	B (2)		
(5)府施策との整合	①府・公益事業協力等の実施状況は適切か	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「おおさか元気広場出前講座」の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪府が実施する教育コミュニティづくり推進事業「おおさか元気広場出前講座」を通して、府内の小学校の放課後子ども教室に赴き、スプーンづくり等、体験活動を実施。2025年11月末現在、実施6件591名。さらに年度末までに8件180名を予定。</li> </ul> </li> <li>○公民館事業への協力 <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年、河南町教育委員会の要請により、テント設営、たき火などの体験活動を提供している。</li> <li>・昨年に続き、堺市「泉ヶ丘ライブタウン会議」の要請により、地域活性イベントでのスラックライン体験を2回提供した。</li> <li>・貝塚市自然遊学館の学術調査研究に駐車場を提供、貝塚市主催イベント「ゆったりウォーク」の通過ポイントに協力した。</li> </ul> </li> <li>○「山岳救助訓練」場所の提供 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪市消防局、貝塚・岸和田消防本部、関西空港海上保安庁などの要請で、山岳救助訓練の場所を提供している。</li> </ul> </li> <li>○その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「なにわなんでも大阪チャレンジ」参加者への特典進呈、「まいど子でもカード」への協力を実施している。</li> <li>・各官庁からポスターの掲示等の様々な啓発に協力している。</li> </ul> </li> </ul>	「おおさか元気広場出前講座」や「山岳救助訓練」の場所提供など、府や市町村の事業に協力している。また、貝塚市自然遊学館の学術調査研究に駐車場を提供したり、貝塚市主催イベント「ゆったりウォーク」の通過ポイントに協力したりするなど、自治体との連携について積極的である。	A (3)		
	②行政の福祉化の実施状況は適切か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障がい者1名を清掃業務担当として継続雇用している。</li> <li>・大阪府商工労働部と連携し、高齢者就労自立支援事業の就労場所として施設を提供している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障がい者1名を清掃業務担当として継続雇用している。</li> <li>・大阪府商工労働部と連携し、高齢者就労自立支援事業の就労場所として施設を提供している。</li> </ul>	A (3)		
	③環境問題への取り組みの実施状況は適切か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsマッピングを行い、チラシに表示を行うとともに事業内に取り組むことで環境問題の啓発を行った。</li> <li>・節電キャンペーンのポスター掲示、節電巡回の実施、デマンド監視装置設置などで電力需要とCO2排出の抑制に努めた。</li> <li>・利用者に持込ゴミの持ち帰り又は有料引き取りを実施することによりゴミの減少に努めている。また、夏期の客室エアコン利用時間については入所の時間に合わせたり、夜間のフリースペースとしての食堂のエアコン利用時間を23時までと案内している。</li> <li>・貝塚市の一般廃棄物処理基本計画に基づき、ゴミ減量政策に協力し、資源ごみは業者に処分を依頼している。</li> <li>・小規模団体受入時の食堂食の提供する際、適切な量の炊飯が行えるよう、小型炊飯器を導入し、フードロス軽減に努めている。</li> <li>・利用者に呼びかけ、節電・節水に努めた。</li> <li>・館内照明の95%がLED照明へ置換され、省電力化されている。</li> </ul>	世界的な目標であるSDGsに関連する取組を積極的に進めていることが評価できる。また、さまざまなエコ活動の取組を実施し、館内照明のLEDも9割に達し、環境問題への取組を適切に実施している。	A (3)		
	④府民、NPOとの協働の実施状況は適切か	<p>(府民との協働)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年2月に行う、「自然の家オープンデー」では、貝塚市魅力づくり推進課・貝塚市警察署・貝塚市消防署・貝塚市民図書館・大阪府立弥生文化博物館・ましわだ自然資料館・貝塚市立自然遊学館・日本蕨類学会大阪大会事務局・大阪府立近つ飛鳥博物館・和歌山県立潮岬青少年の家・かいづかいぶきヴィレッジ・木島幼稚園・東山子ども園・橋本保育所・わかまこども園・久米田保育園・天神山子ども園・こひつじこども園・つくも株式会社・アンフィニッシュクラブ・ファニーバニーボードゲームクラブ・水間鉄道株式会社・大阪いずみ市民生活協同組合・一般社団法人 全国古民家再生協会・蜻蛉池公園・Green Fingers・一般社団法人 K I X 泉州ツーリズムビューロー・サントリービバレッジソリューション株式会社・尾家産業株式会社・有限会社納谷商店・U C C コーヒープロフェッショナル株式会社・株式会社オリエンタルベーカーリー・近畿中央ヤクルト販売株式会社・おさとパン工房など数多くの団体から協力を予定している。</li> <li>・大学生、社会人を主体とした専属リーダー「そぶりだ」を継続的に募集し、主に事業のサポートリーダーとして活躍している。令和6年登録人数46人 → 令和7年 62名</li> <li>事業引率リーダーとしての活動の他、研修を行い、火おこしやテント設営、野外炊飯などのアウトドアスキル研修、キャンプファイヤーなどのレクリエーション研修、グループ運営や保護者へのフィードバックなどのコミュニケーション・ファシリテーション研修を行った。(インターシップの受け入れ)</li> <li>大阪教育大学 12名、大阪体育大学 9名、各種イベントのサポート、施設管理サポートなど、幅広く実習の機会を提供した。</li> </ul> <p>(ボランティア団体との協働)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シニア中心の「和泉葛城ネイチャー」に施設内の環境保全、自然工作や観察などの指導を依頼している。</li> </ul> <p>(NPO法人との協働)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自主事業「乗馬体験と臨床動作法」の開催に際しNPO団体から協力をいただいたり、出前講座などでNPO団体から指導依頼があった場合は協力している。</li> </ul> <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3月に貝塚市、周辺施設との協働で実施するウォーキングイベントに参画を予定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学生や社会人のボランティアリーダーを継続的に活用している。</li> <li>また、2月に開催する「自然の家オープンデー」では、府民等と協働で開催するなど、府民やNPOとの積極的な連携を実施している。</li> </ul>	A (3)		

評価項目	評価基準（内容）	指定管理者自己評価		施設所管課の評価			評価委員の指摘・提言
		評価内容	評価	評価内容	評価基準	評価	
					ごとの評価		
II さらなるサービスの向上に関する事項							
(1)利用者満足度調査等	・利用者満足度調査を実施し、分析結果をフィードバックしているか	<p>（アンケート調査の実施）利用団体には「施設利用」「活動プログラム」「バーベキューガーデン奥貝塚」についてアンケート調査を実施している。</p> <p>（アンケート調査の回収率および調査結果の反映）</p> <p>「施設利用」のアンケートの回収率は11月末時点で92%。アンケート結果は全体会議にて職員で共有し、優先度に応じて対応、改善を行っている。食事や職員の対応などは引き続きご好評を頂いている。各事業も実施後にアンケートを行い、頂いたニーズやアイデアを以降の事業の改善に活用している。</p>		A	利用者満足度調査を実施し、回収率は9割以上ある。個別の事業に対するアンケートも実施することで、細やかな分析ができており、分析結果については、組織として検討、対応するなどのフィードバックができています。	A(3)	A
(2)自主事業	①施設の設置目的に応じた事業が適切に実施されているか						
	・事業数 令和7年度目標 11事業	令和7年度実績（11月末時点）：11事業19回（荒天中止除く。「おおさか元気広場（出前講座）」等を含む） 令和7年度予定：11事業34回			実績（予定含む）：11事業34回 【達成率】100%	A(3)	
	・参加者人数 令和7年度目標 902人	令和7年度実績（11月末時点）：993人 令和7年度見込：1,325人			実績（見込含む）：1,325人 【達成率】146.8%	S(4)	
	・内容（教育効果・参加者満足度・広報等）	<p>自主事業については、11月末時点で年度目標人数を達成しており、ホームページやSNSを中心とした広報により事業認知が進み、応募状況も概ね順調に推移している。</p> <p>「ホテルの夕べ」は例年どおり高い人気があり、宿泊を組み合わせ延べ4回実施した（うち1回はホテルの発生状況を考慮し中止）。本年度はホテルの発生数が例年より少なかったものの、観察自体は可能であり、里山環境との共生について学ぶ機会を提供することができた。</p> <p>「フォレストジュニアクラブ」は小学校高学年を対象に、四季に応じた全4回のプログラムを実施した。春の自然素材を用いた染め物体験、夏の善兵衛団子の協力による手作り望遠鏡づくりと星座観察、秋のキャンドルハウスづくり、3月には世界をテーマとした料理づくりを予定しており、いずれも創造力や協調性を育む内容となっている。</p> <p>「子どもシャワーライミング」は人気が高く、午前・午後の2部制で2日間実施し、天然の滝に挑戦する体験を通じて、子どもたちのチャレンジ精神を育むことができた。</p> <p>「ファミリーキャンプ」は、家族で気軽にキャンプ体験ができる事業として、リーダーによる手厚いサポートが評価され、初心者や低年齢児を含む家族から即満員となった為、柔軟に対応し、回数を増やして2回実施した。</p> <p>知的障がいのある児童を対象とした「乗馬体験と臨床動作法」については、府内支援学校を通じて募集を行い、参加した家族からは、貴重な体験や子どもの表情の変化に対する感謝の声が寄せられている。</p> <p>清水建設および大阪府泉州農と緑の総合事務所との三者共同事業である「アドプトフォレスト」では、クラフトやツリーイング体験を交えながら森の大切さを学ぶ機会を提供し、事業目的を達成することができた。</p> <p>また、毎年恒例の食育事業「自然をまるかじり」では、タッチオープンを用いた鶏の丸焼きづくりを実施し、食材を丸ごと扱う体験を通じて、親子ともに食への理解を深める機会となった。</p> <p>不定期開催の出張型事業「おおさか元気広場出前講座」については、小学校の放課後子ども教室向けに実施しており、本年度末までに14件の実施を見込んでいる。クラフトやロープ遊び、たき火、スラックライン体験などを行い、昨年度からのリピーター校も増加している。</p> <p>さらに、指導者養成事業として、「ネイチャーゲームリーダー養成講座」や施設ボランティア向けの「そぶらリーダー研修」（年3回）を実施するとともに、大学生のインターン就労体験の受入を行い、次世代人材の育成にも取り組んだ。</p>		A	いずれの事業においても、青少年をはじめ多様な層を対象とした、自然の家の強みを活かした多種多様な魅力的な内容に取り組んでおり、利用者の学びも深いものとなっている。特に人気の高いプログラムの「ホテルの夕べ」と「子どもシャワーライミング」については開催回数を増やしたり、即満員になったものについても開催回数を柔軟に増やし対応したりするなどの工夫も行っており、利用者の満足度も高い結果となっている。	S(4)	A
	②その他の自主事業が提案のとおり実施されているか						
	・事業数 令和7年度目標 10事業	令和7年度実績（11月末時点）：11事業26回（中止除く） 令和7年度見込：11事業40回			実績（見込含む）：11事業40回 【達成率】110%	A(3)	
・参加者人数 令和7年度目標 1,963人	令和7年度実績（11月末時点）：664人 令和7年度見込：1,653人			実績（見込含む）：1,653人 【達成率】84.2%	B(2)		
・内容（利用促進につながっているか、利用者満足度等）	<p>「その他自主事業」については、利用者のニーズを踏まえ、新たな試みを織り交ぜながら企画を行い、利用促進を図っている。11月末時点での利用人数は目標に対し少ないものの、昨年度より秋に実施していた感謝イベント「オープンデー」を本年度も2月に実施する予定としており、あわせて1月および2月には人気の高い「たき火を楽しもう」を実施する計画である。これらの取組により、開散期の利用促進を図り、年度目標の達成を見込んでいる。</p> <p>「オープンデー」については、昨年度に引き続き夜間のキャンプファイヤー体験を組み込んだ後夜祭パックに加え、新たに前日から参加できる前泊パックを導入し、利用者数の増加を図る。</p> <p>家族を対象とした事業としては、「お泊りパック」（春・秋の連休および冬の3期間）、「流しそうめん体験」（8回）、「家族でツリーイング体験」（2回）を実施した。いずれも家族の絆を深める体験や思い出づくりの機会として好評を得ており、「お泊りパック」については季節ごとにプログラムや野外料理の内容を変更することで、リピート参加者の満足度維持に努めている。</p> <p>未就学児を対象とした「親子deしげんのようちえん」は年4回実施しており、非常に高いリピート率を示している。季節に応じた野外遊びを通じて、親子で自然との関わり方を学び、豊かな原体験を育む取組を継続している。</p> <p>また、「もりのようちえん」と「フォレストジュニアクラブ」の中間に位置付けた小学校低学年向けの年間事業「もりのこくらぶ」は、年4回の実施とし、「森」「川」「火」「山」をテーマに、子どもの自立を促す内容で展開している。</p> <p>「おとなのえんそく」では、本格的なビザづくりやツリーイング体験を実施し、大人ならではのゆったりとした時間の過ごし方と、主体的に楽しむ体験を提供した。</p> <p>さらに、12月に実施予定の小学校高学年向け「クリエイターキャンプ」では、グループで施設を紹介する動画の企画・撮影・編集を行うとともに、本年度はAIを活用した作曲づくりにも取り組む予定としており、デジタルと自然体験を組み合わせた新たな試みとして実施する。</p>			事業の参加状況や、利用者の反応を、事業の内容や回数に反映しており、利用の促進を図っている。また、新規利用者や大人の獲得をねらいとする事業にも精力的に取り組んだり、リピーターの満足度を維持するための工夫をおこなったり、事業の向上のために努力が続いている。 <p>「オープンデー」では、人気の高いプログラムを取り入れたりと、昨年度に引き続き、夜の部を開催したりと、参加者数増加に力を入れて準備している。また今年度より前泊パックも企画し、さらなる利用者増に取り組んでいる。（2/11開催）</p>	S(4)		

(3)その他創意工夫	・その他のサービス向上につながる取組み、創意工夫がされているか（危機管理を含む）	利用者サービスの向上を目的として、ICT環境の整備を進め、打合せのために来所が難しい団体に対しては、昨年度よりZoomを活用したりリモート形式での事前打合せを実施している。また、事業受付時の説明については、タブレット端末や自然の家のYouTubeチャンネルを活用した動画コンテンツを一部導入し、利用者の理解促進および職員負担の軽減を図っている。施設の安全対策としては、熱中症対策として、クラフト室にエアコンを新設し夏場の対策を行った。セキュリティに関しては各宿泊棟のフロア入口にスマートロック（電子錠）を引き続き導入している。学校団体向けの取組としては、昨年度に引き続き4月に「下見ツアー」を実施し、特に新学年の担任教員が事前利用時のイメージを持つことができる機会として好評を得ている。また、学校や保護者から寄せられる個別のスペシャルニーズに対応するため、食事の個食対応や、保護者が別室で同伴宿泊できる体制を整えるなど、利用団体の状況に応じた柔軟な運営を行っている。防災面では、急な災害に備え、飲料水や防災食、防災用品等の備蓄を計画的に整備し、利用者および職員の安全確保に努めている。さらに、指導者不足によりキャンプファイヤーやクラフト、炊飯指導等の活動実施が困難な団体に対しては、有料によるプログラムサポートを提案しており、利用団体のニーズに応える取組として好評を得ている。		電話やリモート会議での打合せの実施や、タブレットや動画での説明等、ICT機器の活用は、利用者の利便性の向上につながった。他にも、下見ツアーの実施や、プログラムのサポート等、利便性の向上や利用者ニーズへの対応に努めている。	A (3)	A	
------------	--	--	--	--	-------	---	--

Ⅲ 適正な管理業務の遂行を図ることができる能力及び財政基盤に関する項目

(1)収支計画の内容、的確性及び実現の程度	①収支計画の妥当性及び事業計画・管理体制計画との整合性は図られているか	（収支計画の妥当性） 令和7年度の収支計画は、令和5年度と令和6年度の収支計画を基に作成した。 （事業計画） 令和7年度の収支計画と整合するように作成した。 （管理体制計画） 令和7年度の収支計画と整合するように作成した。		提案時の収支計画を見直し、昨年、一昨年来を基に検討した収支計画としたことは妥当である。また、変更した収支計画と事業計画・管理体制計画との整合性が図られている。	A (3)		
	②収支は計画どおり行われているか	年度予算に対する4月～11月までの収支状況については、収入面では宿泊部門81%、食堂部門82%と、理論進捗（約66.7%）を大きく上回って推移している。一方、支出面については施設部門66%、食堂部門69%と、概ね計画通りの執行状況である。		おおむね計画通りに行われている。	A (3)		
	③収入確保や管理コスト削減の取組みは実施されているか	（収入確保の取組） 原材料費の高騰を受け、食事料金および事業参加費の見直しを行い、収入の安定化を図った。また、昨年度に引き続き好評であった、日帰り事業参加後に宿泊利用が可能なプランの追加や、「お泊りパック」の積極的な開催に加え、利用団体のニーズに応じたプログラム指導の提案を行うなど、収入の増加と顧客満足度の向上の両立を目指した。さらに、抽選に外れた利用団体に対しては利用時期の変更を提案し、利用の継続を促すことで、団体数の確保および収入の増加に努めた。 （管理コスト削減の取組） 管理コスト削減の取組として、光熱水費については引き続き施設照明のLED化を進め、現在約95%のLED化を達成している。また、昨年度より継続して発生していた漏水について、原因箇所の調査・特定および修繕を行った結果、水道使用量の削減につながった。これらの取組により、11月末時点における支出は予算比64%に抑えられている。そのほか、1月からは冬季における体育館利用に際して灯油使用料金を設け、運用を行うことで燃料費の削減を図るとともに、宿直業務や除草作業など一部の外部委託業務については自主対応とし、管理運営コストの低減に努めている。	A	利用団体のニーズに応じたプログラム指導を提案を実施するなど、収入増加と顧客満足度の向上を目指した。また抽選にもれた利用団体には、別案を提案するなど積極的に利用の継続を促し、団体数の確保と収入増加に努めている。光熱費については、LED化や節電の徹底等により、管理コストの削減に努めている。また、冬季における体育館利用に際して灯油使用料金を設け、運用を行うことで燃料費の削減を図っている。	A (3)	A	
(2)安定的な運営が可能となる人的能力	①管理運営業務全体として職員体制は適切か	・共同事業体2団体により適切な職員配置を行っており、職員は総括2名、施設管理部門23名（うちパートアルバイト14名含む）。食堂部門は14名（うちパートアルバイト9名含む）を配置した。		繁忙期に合わせて柔軟に期間限定での職員増員を行い、適切な職員体制の整備に努めている。	A (3)		
	②事業実施に必要な人員数の確保・配置従事者への管理監督体制・責任体制は適切か	・団体の利用受入れについては、体験活動に精通した社会教育士を含む職員が助言を行い、学校等の自然体験活動を支援している。 ・事業実施の際には職員を主・副担当として配置し、管理監督の下、参加者の安全、生活面での指導に当たっている。またボランティアリーダーを育成するため、年間を通じて研修を行い、指導面や安全面のスキルアップに取り組んでおり、研修を受けたボランティアリーダーを各事業に配置している。	A	社会教育士による助言や、事業における主担当・副担当の配置等により、適切な管理監督体制・責任体制を整えている。	A (3)	A	
	③年間研修計画を策定し、適切な研修体制の整備、職員の指導育成を行っているか	・各構成団体が実施する人権研修は職員全員が受講予定である。教育施設関係の会議・研修は、4月の「近畿地区青少年教育施設協議会 総会」に1名が参加。12月にも同協議会の所長研修に1名の参加を予定している。 専任研修としては5月に72時間サバイバルディレクター養成講座を2名受講。ツリーング研修に2名参加。6月に自主にて衛生管理講習会（岸和田保健所に講師依頼）12名受講。12月に岸和田保健所、給食研究会、衛生講習への参加4名を予定している。		職員全員が人権研修を受講することとし、利用者に対して適切な対応ができるようにしている。また、さまざまな研修や講座等を積極的に受講することで、職員の指導育成を行っている。	A (3)		
(3)安定的な運営が可能となる財政的基盤	①運営基盤として、事業者の経営状況は健全か	本年度は、万博需要の高まりに伴い大型バスの確保が困難となり、春先を中心に学校団体からの予約取消が発生した（4月時点で小中学校31団体・4,421人）。これにより一時的に利用者数へ影響が生じたが、次年度以降の予約状況については例年並みの水準まで回復しており、影響は限定的かつ一過性のものと捉えている。運営団体としては、適正な施設管理運営および雇用の維持を前提とつつ、支出管理の徹底や資金繰りの安定化等により経営の健全化に向けた対応を継続している。現時点において、現時点において、経営状況は概ね安定して推移している。	A	来年度も引き続き大型バスの価格高騰による学校の事業見直し等はあるだろうが、万博による影響はなくなることから予約状況については回復が見込まれる。事業者として、適正な施設の管理運営・雇用維持・手元資金の確保等のために様々な手段を講じてきている。	A (3)	A	
	②運営状況として、事業者の財務状況は妥当か	令和7年度の財務状況については、外部要因による一時的な収入減の影響を受けたものの、予算執行状況は概ね計画通りに推移しており、支出管理や資金繰りの面でも大きな問題は生じていない。以上から、現時点における財務状況は妥当であると判断している。		概ね安定した経営状況であり、財務状況も妥当だと考えられる。	A (3)		

○ 各評価項目について、S（優良）、A（良好）、B（ほぼ良好）、C（要改善）の4段階で評価をする。

○ 評価項目に複数の評価基準があるものは、各評価基準ごとに、S A B Cの4段階で評価したうえで、S（4点）、A（3点）、B（2点）、C（1点）とし、評価基準の平均値が【3.5以上 … S / 2.5以上3.5未満 … A / 1.5以上2.5未満 … B / 1以上1.5未満 … C】で評価をする。

○ 網掛けの項目は、下記の方法により定量評価を行う。

I (3) ① 年間利用者数 … 目標利用者数の【100%以上…S / 目標値の85%以上100%未満 …A / 70%以上85%未満 …B / 70%未満 …C】

※ 少年自然の家では、夏場繁忙期・冬場閑散期という特徴があり、第2期（平成23から27年度）11月末時点の利用者数実績が目標値の約85%であったことから、目標値の85%以上をAと設定する。なお、評価は11月末時点の数値で行う。

その他の項目 … 目標値の達成度が【120%以上…S / 目標値の100%以上120%未満 …A / 80%以上100%未満 …B / 80%未満 …C】として評価を決定する。（ただし、年度未までの予定数も含む）